

平成 29 年度

いきるちから

～夢をかなえる 「家庭学習の手引き」～

《保護者向け》



明石市立錦浦小学校

保護者のみなさまへ

家庭での学習は、学校で学習したことをしっかり身に付けていくために大切なものです。また、生涯において学び続ける力や、生きる力として必要な確かな学力を向上させていくためにも、とても大切なものです。小学校の時期に家庭での学習の習慣を身に付け、お子様の将来に向けての学習や生活のよりよい習慣づくりのために、この手引きを作成しました。

家庭学習は、学校での授業がわかり、意欲的に学習に取り組めてこそ、習慣づき充実するものです。学校においては、楽しくわかる授業づくりを第一に考え、保護者の皆様との連携を図りながら、お子様の家庭での学習の質の向上を願っています。

この手引きに書かれている内容の一つでも二つでも参考にいただき、ご活用いただければありがたいです。学校でも、子どもたちが積極的に家庭学習を進められるよう具体的に指導していきます。随時、学校と家庭が連絡を取り合って子どもたちを育てていきましょう。

内容のポイント

- ♥ 子どもの育ちの特徴を書いています。成長段階に応じた励まし方、見守り方の参考にしてください。
- ♥ 学習習慣は、よい生活習慣と表裏一体の関係にあります。お子様といっしょに環境づくりや続けることの良さを実感してください。
- ♥ 学年ごとに習慣づけたい具体的な内容例を示しています。あせらず、あきらめず、根気強く、励まして、確かな力をつけましょう。
- ♥ 国語や算数以外の学習、運動などに多くはふれていませんが、学校で学習したことなどを家でもやってみようとする意欲を大事に取り組みせてください。



活用のポイント

- ♥ ほうびを与えることや叱ってばかりでは、のぞましい習慣はつきません。小さな成功、少しの前進も、しっかりみとめ、ほめて自信をつけさせましょう。
- ♥ 学校と家庭が一体となって子どもを育てるには、互いに連絡を取り合うことです。この手引きの内容が、お子様の成長の見取りとなるよう学校でも家庭でも同じ思いで活用していきましょう。
- ♥ 保護者の皆様からのご意見やお考えを生かし、より参考にできる手引きへと変えていけることを願っています。
- ♥ 今年度は、保護者向け手引きを全家庭へ配付します。以後、新1年生と転入生には、配付し、内容等が大きく変わらなければ、この手引きのままでの活用をお願いします。

1. 2年生

学習時間の目安

10分から
30分

小学校低学年は、生活習慣や家庭学習習慣を身につけるスタートラインです

♡ このころの育ち

学校へ通うようになり、系統だった学習を始めます。さまざまなことに興味・関心を持ち、自分でやっというとする時期です。手助けをしながら、できたことは、意欲と自信につながるように「よくやったね!」と笑顔でほめてあげましょう。

「早寝、早起き、朝ごはん」は、もちろんのこと、家の手伝いや自分で学習の準備をする習慣をつけていくことから、進んで学習する意欲を育てていきましょう。

どんな出来事も、自分の都合のいいように話してしまう傾向がありますが、よく話を聴いてあげましょう。小さなことでも自分でやってみようとして、続けてできたときは、「えらかったね。」とほめてあげることが意欲へとつながります。

- ・何でも知りたがっています。
- ・頑張ったことや、よいところをほめて欲しいと思っています。
- ・一人で学習することや、やり方を決めるのは難しいです。

♡ 家庭学習のポイント

一緒にいて やる気をおこす

- ・学習するときは、身の回りの整理整頓をさせましょう。
- ・学校からのプリントや宿題は親と一緒に確かめましょう。
- ・学習する時間や何時までに学習を終えるか目標を立てさせましょう。
- ・正しい鉛筆の持ち方、姿勢に注意しましょう。
- ・「早寝早起き」「決まった時間に食事」「朝の排便」「正しい姿勢で座る」などの基本的な生活習慣が身につくと、学習の習慣も身につきます。



♡ 学年で身につけたい力

習慣づけの1年生

- ・鉛筆を正しく持って、正しい姿勢で字が書ける。
- ・ひらがな、かたかなの清音が読めて書ける。
- ・助詞「てにをは」を使い分けて文章を書く。
- ・新出漢字（80字）のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・100までの数について数えたり、表したりできる。
- ・一ケタのたし算やひき算が正確にできる。 など



日記

毎日、一緒に今日の生活を振り返り、楽しかったことやうれしかったことを少しでも素直に自分の言葉で書くようにアドバイスしてあげましょう。学校でのことを話題にすることも大事です。

逃げない子にする2年生

- ・新出漢字（160字）のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・順序よく話をするができる。
- ・主語、述語の意味がわかる。
- ・九九がすらすら言える。
- ・たし算、ひき算、かけ算が速く、正しくできる。
- ・筆算をきれいに書きながら、計算できる。
- ・決められた長さの直線を正確に引くことができる。など

家庭で読書を

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、人生をより良くするための生きる力を身につけていく上で欠かせないものです。「心の栄養」となる、本に触れる時間をつくりましょう。

♥ こんな学習方法で（学校から、宿題として毎日の課題とします。）

国語 【音読】

- ・教科書などを、すらすら読めるように毎日声に出して練習させましょう。
- ・好きな本を手に取り、毎日少しずつでも読書をさせましょう。
- ・句読点に気をつけて、ゆっくり、はっきり、大きな声で読ませましょう。

【漢字】

- ・書き順に気をつけて、ていねいに正しく書かせましょう。（漢字は書き順で覚えます。）
- ・漢字ドリルなどを活用し、繰り返し、ていねいに書かせましょう。

算数 【計算】

- ・最初は速さを競わず、楽しみながら計算に慣れるようにしましょう。
- ・正確に計算できるようになったら、少しずつスピードを上げて練習させましょう。
- ・間違った問題は、必ず直す習慣をつけましょう。
- ・計算の手順が正しく身につくように唱えながら練習させましょう。
- ・文章問題は、声に出して問題を読ませましょう。



♥ お願いしたいこと

【学習しやすい環境づくりを】

低学年では、まず、学習習慣を身につけることが大切です。一人で勉強するよりも、お家の方がそばにいて、言葉を交わし合えるところで学習するとよいでしょう。例えば、夕食の用意をしているお家の方が近くにいる食卓やリビングなら、宿題のわからないところをすぐに相談できます。お家の方にとっても子どもの姿が見え、声かけもできます。お家の方に見守られているという安心感と温かい雰囲気の中で学習習慣を身に付けさせていきましょう。

また、テレビの視聴時間やゲームをする時間など、具体的なルールを決めて守るようにしましょう。そして、ルールなどが守れなかった場合、どうするかを約束として決めておくこともルールを守らせる上で大切です。

♥ 家庭での関わり3つのつぼ

① 子どもの話はしっかり聞こう！

子どもの言うことを鵜呑みにせず、事実が明らかになるように上手に話をさせましょう。そして、この次はどうすればよいか子どもと一緒に考えるようにしましょう。

② 家族も一緒にこんくらべ！

はじめをつけること、何事も最後までやったかどうかを必ず家族の目で点検しましょう。

③ 子は親の後ろ姿を見て育つ！

大人がお手本となるような「学ぶ」姿勢を見せましょう。

3. 4年生

学習時間の目安

30分から
60分

好奇心旺盛な小学校中学年は、学習意欲を高めるとき

♡ このころの育ち

自立心が芽生え、自分でやろうとすることが多くなります。行動範囲も広がってきます。自己主張や反抗などの口答えも見られるようになります。まだまだ手助けが必要です。

○みんなで行動することを好み、同じものを持ちたがります。

○子どもの成長をとらえ、まずはしっかり聞いてやることに心がけ、家族の温かい声かけで学習に対する興味関心を高め、学習習慣を定着させる意識をいっそう育てていきましょう。

- ・何でも自分でやりたいと思っていますが上手くできません。
- ・手助け応援で、少しずつ自分でできるようになります。
- ・ちょっとしたアドバイス、励ましでやる気を起こします。

♡ 家庭学習のポイント

認め、ほめて、自信をつける

- ・学習するときは、身の回りの整理整頓をさせましょう。
- ・学校からのプリントを親に手渡し、宿題を自分で確かめさせましょう。
(プリントは「置く場所を決める」「食事の時に渡す」などのルール作り)
- ・がんばりを見逃さず、励ましの言葉をかけましょう。
(分からないところは、答えを教えるのではなく一緒に考えてあげましょう。)
- ・毎日決まった学習習慣帯で学習できるようにしましょう。



♡ 学年で身につけたい力

分岐点を乗り越える3年生

- ・配当漢字(200字程度)のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・短い詩などいくつか暗唱できる。
- ・簡単なことわざを知っている。
- ・主語述語が分かり、正しく使った文章を書く。
- ・国語辞典を使うことができる。
- ・かけ算の筆算や簡単なわり算などを正しい手順で計算できる。
- ・はかりを使って重さを読める。
- ・コンパスが正しく使える。 など

9歳の壁

人は自然に12歳までに抽象的思考ができるようにプログラムされています。

そして、ちょうど9歳の頃に具体的思考(例:指を折って数えて答えを出す)から抽象的思考(例:式に表し計算から答えを出す)に移行するのです。

つぎのページへ続く

「9歳の壁」を越える4年生

- ・ 配当漢字（200字程度）のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・ 国語辞典や漢字字典を手元に置いて使い方に慣れる。
- ・ 文と文のつながりを考えながら、指示語、接続語を使う。
- ・ わり算の筆算ができる。
- ・ 倍を使った文章問題が正しくできる。
- ・ 分度器を正しく使うことができる。
- ・ ローマ字を適切に読み書きできる。
- ・ 地図を使って見知らぬ場所や地名を調べることができる。
- ・ 47都道府県の位置がわかり、正しく名前を書くことができる。
など

「9歳の壁」続き

しかし、
うまく抽象的思考に移行することができず、学習するときに混乱してしまう場合があります。これを9歳の壁といいます。

このことを周囲の大人がわかっていることによって、子どもがつまづきに、適切なアドバイスをおくることができます。

♥ こんな学習方法で（学校から、宿題として毎日の課題とします。）

国語 【音読】

- ・ 毎日1回は声を出して教科書を読ませましょう。（教科書を持ち、正しい姿勢で読みます。）
- ・ 様子が分かるように気持ちを込めて読ませましょう。（大げさな声の抑揚や強弱は避けて、文章にそって登場人物の思いを想像して表現できるとよいでしょう。）
- ・ 国語辞典や漢字字典などをそばに置いて使えるようにさせましょう。
- ・ 読書をして家の人と感想を話し合ひましょう。

【書く】

- ・ 行ったことや見たこと、思ったことを日記に書かせましょう。
- ・ 書き順、「はね」「はらい」「とめ」に気をつけて書かせましょう。（書くことに慣れたり、面倒くさがったりして、文字が乱暴になりがちな学年でもあります。）

算数 【計算】

- ・ かけ算の九九を忘れないように時々暗唱させましょう。
- ・ ノートのマス目を使って位をそろえて書くようにさせましょう。
- ・ 計算の手順が正しく身につくように唱えながら練習させましょう。
- ・ 文章問題は、声に出して問題を読んだり、絵や図に描いたりして考えさせましょう。



♥ お願いしたいこと

【脳の前頭前野がもっとも発達する時期】

この時期から、脳の機能が大きく発達する時期と言われています。そして、長時間のテレビの視聴やゲームが脳の「前頭前野」により影響を与えないことが分かっています。家庭でテレビやゲームのルールづくりを徹底させたいですね。 ※「前頭前野」の解説は最後のページを参照

♥ 家庭での関わり3つのつぼ

① ほかの子と比べない！

学習に少しずつ個人差が出てくる頃です。友だちや兄弟・姉妹で成長を比べることは避けて、「がんばり」を見逃さずに、本気でほめましょう。

② 周りの人に対する、ていねいな言葉遣いを教えましょう！

③ 約束を決めて、守らせましょう！

5.6年生

学習時間の目安

50分から
90分

小学校高学年は中学校に向け、自主性を育てるとき

このころの育ち

- 自分でやろうとする心が大きく育ちます。また、一人前に接してもらえているか、大切にされているかなど、大人の評価が気になる時期でもあります。
- 自分を客観的に見ることができるようになり、友達の評価を気にし、上手に人間関係を作れないことに心を痛めることがあります。
- 考える力も大人並みになり、時には大人への反抗も見られます。
- 身体も心も急激に変化します。バランスが崩れ、不安定になることがあります。学校としっかり連絡を取り合しましょう。

- ・自分でできると思っているので、言葉がけに配慮が必要です。
- ・得意な教科や苦手な教科を意識するようになります。
- ・先生や家族の言葉によって、学習に対する意欲や興味、関心が大きく左右されます。

家庭学習のポイント

見守って・伸ばす

- ・自分にあった生活のリズムを作りましょう。
(夕食前、夕食後、など学習に取り組む時間帯を決めましょう。)
- ・計画を立て自力で学習を進めるように見守りましょう。
- ・宿題以外に自主学習をさせましょう。
- ・新聞やニュースをテーマに、家庭で話をするなど社会の動きに興味をもたせましょう。



※これまでの学習習慣が定着していることによって、見守り方、声のかけ方しだいで、ぐんと伸びます。学習習慣が定着していないところは、あきらめず、根気よく励ましましょう。

学年で身につけたい力

大きくジャンプアップする5年生

- ・配当漢字（185字程度）のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・今まで習った漢字を使った熟語を書く。
- ・小数のかけ算やわり算ができる。
- ・分母が異なる分数のたし算ひき算、分数に整数をかけたり割ったりするかけ算わり算ができる。
- ・百分率を使った問題を解ける。・パソコンでローマ字が入力できる。
- ・人の誕生や成長、物の動きの規則を知る。
- ・日本や世界の主要国の位置を正しく示すことができる。 など

自主性と放任

進んで物事に取り組もうとする習慣や力がついてくると頼もしく感じ、子育ての手ごたえがあって、子どもの成長をより実感できる時期でもあります。

つぎのページへ続く

中学校生活に希望が持てる6年生

- ・小学校で習ったすべての漢字が読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・小学校で習った漢字を使った熟語が書ける。
- ・短歌や俳句のいくつかを暗唱できる。
- ・分数のたし・ひき・かけ・わり算ができる。
- ・単位量あたりの考え方や速さの計算ができる。
- ・歴史上の事件や人物について、だいたい説明できる。
- ・重要な年号をある程度覚えている。
- ・日本国憲法の前文や三権分立など、社会用語をだいたい説明できる。
- ・理科の実験道具が正しく扱える。
- ・パソコンで速く、ローマ字が入力できる。 など

自主性と放任

しかし、
何でも自主性と言って放任になっては、思春期の子どもに適切なアドバイスができません。子どもの生活、育ちから目を離さない子育てが大変重要になる時期です。
学校と家庭との連携がとても大切です。

♥ **こんな学習方法で** (学校の宿題だけでなく、予習・復習などの計画的な自主学習が必要です。)

国語 【音読】

- ・教科書を毎日音読させましょう。
- ・間を取りながら、読む速さや強弱を工夫して、自分のめあてに向かって読めるように練習させましょう。
- ・詩や俳句、短歌などを暗唱させましょう。
- ・学校の学習（例えば社会の歴史や理科の実験）に関する読書にも挑戦させましょう。

【書く】

- ・漢字の構成や字形を意識して書かせましょう。
- ・漢字ドリルなどを活用し、難しい漢字の練習にも取り組ませましょう。

算数 【計算】

- ・考え方が身についているか、自分の方法は正しいかを教科書やノートで確かめさせましょう。
- ・ノートの線を使って位をそろえて書くようにさせましょう。
- ・間違いがないか検算をしたり見直したりして答えを確かめさせましょう。
- ・文章問題は、声に出して問題を読んだり、簡単な図に描いたりして考えさせましょう。

♥ お願いしたいこと

【インターネット・携帯電話利用にはルールをつくり守らせましょう】

別紙、お手紙でもお願いしてきていることです。お子様が、事件や事故に巻き込まれたり、命を傷つけたり、傷つけられたり、起きてはならないことから自分を守る子にしましょう。

♥ 家庭での関わり3つのつぼ

- ① 自主学習の習慣をつけさせよう！
- ② よく考えて行動する習慣をつけさせよう！
- ③ 子どもの存在を認めよう！



反抗的な態度をするのはなぜでしょう。子どもにも言い分があることが多いものです。よく話を聴き、納得できるものは話し合ひましょう。頭ごなしに否定しないようにしましょう。
しかし、ダメなことはダメとはっきり教えましょう。



「中学校へつなぐ」

小学校6か年の積み上げを中学校生活へつないでこそ、子どもの生きる力を育て、夢の実現を可能なものにします。中学校生活についても、ご家庭でお子様としっかり話し合う機会を持っていただきたいと思います。

中学生って

体つきが大きくなり、普段の生活もほとんど自分でできるようになります。さらに、大人顔負けの言葉を遣ったり親に反抗したりします。外見から見ると大人に近づいた状態です。しかし、内面的に見ると、大人の部分と子どもの部分をちょうど半分ずつ持っている。これが中学生です。

小学生の頃は「学校のこと、友だちのこと、何でも話してくれ、親の言うことは聞き入れてくれる。」という感じで、子どものことを理解しやすかったのに、中学生になると「学校や友だちのことは話してくれなくなったり、何となく会話しにくい感じがしたり、反発されることも多くなる。」ということも多くなると思います。子どもの本当の姿が見えにくくなる時期でもあります。でもこれは、一人の大人として自立する第一歩として表れる現象でもあります。

中学生と小学校の出口の違い

中学校と小学校の大きな違いは、それぞれのお子様の目標によって卒業までに進路を決定していかなければならないことです。そして高校進学を希望する場合は、高校の入学選抜試験を受験しなければなりません。それは、中学校で学習した内容が問われ、適切な解答や考えを表現できることが求められます。

定期テストや成績

小学校では、各教科で単元が終わるたびにテストがあります。中学校では、これに加え中間テストや期末テストといった定期テストがあります。また、学力テストもあります。テストの回数は減りますが、テスト範囲が広くなり、1日に何教科ものテストがあります。日常の学習も大切ですが、テストに向けて計画を立て、その計画を実行していくことも大切です。

成績は、このテストの結果が大きく関係しますが、授業に取り組む態度や提出物をきちんと出したか、小テスト、なども合わせて成績がつかます。



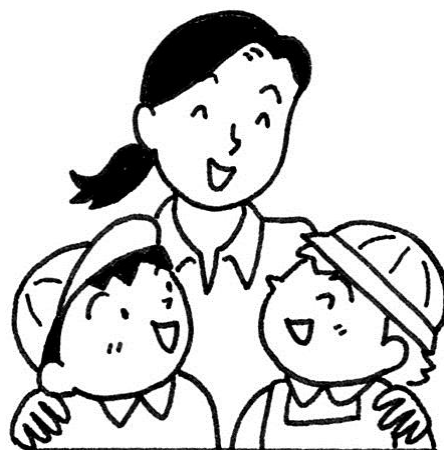
毎日の暮らし方、言動が、自分自身を成長させていくことになる、大切な中学3年間です。

【前頭前野の大切な働き】 ①顔の表情や声の様子から、人の気持ちを推察する働きがあります。②ものを覚えるという気持ちも、前頭前野から出てきます。「覚えるためには繰り返し練習しなきゃ！」と前頭前野が教えてくれるのです。③「さあ、がんばるぞ！」という「やる気」、何かをやってみようという「やる気」「挑戦する気持ち」も前頭前野から出てきます。④反対に、「やってはいけないことはしない。」という気持ちも前頭前野から出てきます。⑤悲しいこと、悔しいことがあっても人前では顔に出さずに我慢する気持ち、これも前頭前野の働きです。これがうまく働かないと、ちょっとしたことで、すぐに怒ったり、めそめそしたりしてしまいます。⑥前頭前野は、いろいろなものを発明する力も発揮します。音楽や絵画などの芸術作品を作り出すのも、この脳の働きです。⑦周りのことを気にしないで、一つのことに打ち込む集中力は、前頭前野の働きです。反対に、2つ3つのことを同様にできる力もこの働きなのです。⑧私たちは、前頭前野を使って、いろいろなことを考えています。人とは違ったアイデアがたくさん浮かんでくるような人は、前頭前野をうまく使える人です。

平成 29 年度

いきるちから

ゆめ かていがくしゅう てび
～夢をかなえよう「家庭学習の手引き」～
《子ども向け》



な な なにごと
為せば成る 為さねばならぬ何事も

けいぞく ちから
継続は力なり



明石市立錦浦小学校

「子ども向け手引きについて」

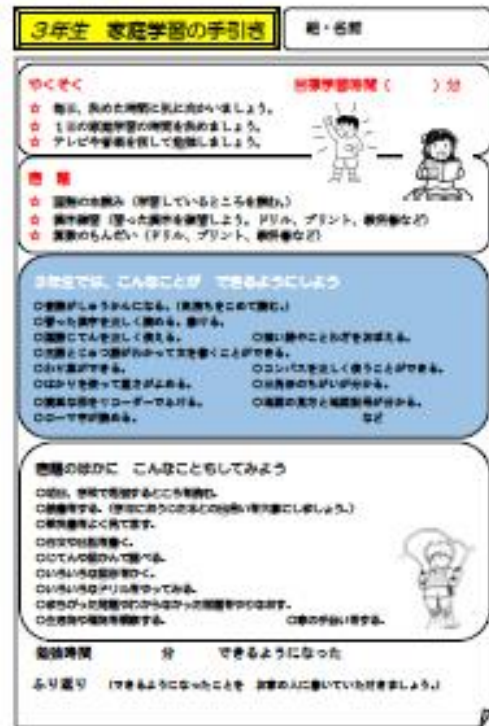
活用についてのお願い

1年生から6年生まで、子ども向けの手引きを作成し、子どもたちに毎学期、配付します。A4サイズの1枚のプリントの裏面に、「学習時間のめやす、約束、毎日の宿題、学年で身につける主な学習内容、こんなこともやってみよう。」という学年に応じた内容を示しています。

そして、保護者の方に、何分家庭学習ができるようになったか、できるようになったことなど、ひと言書いていただき、学期末に子ども向け手引きを担当まで提出いただくようにしています。

ひと言書いていただき、お子様の家庭での学習の様子を伝えていただくことで、子どもの意欲を高めることができると考えています。ご協力をよろしくお願ひいたします。

例：3年生の手引き



「結びにあたって」

保護者のみなさまへ

- ・お子様により学習習慣、生活習慣が身につけていきますよう、学校と随時連絡を取り合いながら、子どもを育てていきましょう。ほめて、認めて育てていきましょう。
- ・保護者向けの家庭学習の手引きを読んでいただき、できることから何か一つでも参考に始めていきましょう。継続は力なりです。
- ・お子様の話をしっかり聴いていただきながら、何事も鵜呑みにせず、あいまいなことが無いように話しているか、確かめてください。聞き上手、ほめ上手になりましょう。
- ・はっきりしないこと、なっとくがいかないことがありましたら、担任に連絡いただき、事柄の経緯や根拠を確かめてください。学校と家庭との連携が重要です。
- ・学校では、学習の手引きが無理なく活用できるよう、ていねいに根気強く指導していきます。ご家庭でのご理解とご協力をお願いします。学校、家庭のそれぞれの持ち場が重要です。
- ・家庭学習は、学校で点検しますが、その日のうちに間違いなど、お家の方で直していただけますと、学習内容の定着度が向上します。宿題の確認をご家庭でもお願ひいたします。学力の習得は学校で、学力の定着は家庭で、協力し合ひましょう。

お 礼

この手引きの作成にあたっては、北海道中富良野市教育委員会、中富良野町立宇文（うぶん）小学校の手引きを参酌させていただきました。また、明石市教育委員会の家庭学習の手引き作成の指針も参考に作成しています。ご指導、ご協力ありがとうございました。

